

～ 旅行のお楽しみ ～



岡崎 幸



旅行といえば、おいしい料理、お土産など、たくさん連想されるかと思いますが、文具好きの私の楽しみの一つは、御当地のポストカードやレターセットを買うことです。

先日、社員研修旅行で東北を訪れた際、仙台弁こけしのカードに、大崎市のひまわり畑のカードをみつけて、ワクワクしました。早速、ホテルから、ひまわり好きの娘が喜ぶ姿を思い浮かべながら書きました。これからも、いろんなポストカードを集めてみたいです。

私のつぶやき

～ 母の日のプレゼント ～



橋本 駿



5月12日は全国的に母の日でした。私は毎年のように母にプレゼントを渡しています。母の日のプレゼントはどんなものが喜ばれるのか、と迷っている方も多いのではないのでしょうか。私は、いつもは花とか、なるべく見栄えのいいものを選んでいますが、今回はハーバリウム(植物をオイルに漬けて瓶詰めにしたもの)をプレゼントしました。生花は何日かで枯れてしまいますけど、ハーバリウムは半年近くは枯れないので、窓際とかに飾って長く楽しめるようです。母が喜んでくれたかどうかは分かりませんが、部屋に飾ってあるようなので、とりあえずは安心しています。

7～9月の税務・お知らせ

源泉所得税の特例納付 … 7/10(水)まで
労働保険の申告・納付 … 7/10(水)まで
社会保険の算定基礎届 … 7/10(水)まで



お休みカレンダー

2019年 7月							2019年 8月							2019年 9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	31	29	30					

わたしたちは、たくさんの“ありがとう”を集め、日本の中小企業を元気にします！
過去のニュースレター「かけはし」は、弊社ホームページからご覧頂けます。

かけはし

Vol.41
夏号

2019年7月



夏といえば花火!!
益田水郷祭も楽しみ
です!!(*' ')

胸がすっきりする
ような青空ですね
(^^)



〒698-0041 島根県益田市高津一丁目1番1号
TEL (0856) 23-6116 FAX (0856) 23-6674
E-mail bplan@sx.miracle.ne.jp
HP <http://annokaikei.com>



ビジネスプラン / あんの会計

こんにちは、安野広明です。
いつもニュースレター「かけはし」をお受け取りいただき、ありがとうございます。

先月、社員研修旅行で、東日本大震災の被災地（南三陸町、石巻市）を訪れました。あれから8年が経ち、最近ではテレビでも報道されなくなりましたが、実際に現地を訪れると、想像以上に復旧が進んでいない現状を目の当たりにし、今更ながら、被害の大きさに愕然としました。途中、石巻市にある水産加工会社、㈱ヤマサコウショウ様へ伺い、佐々木社長の体験談を拝聴する機会もございました。私を含め、社員それぞれに感じる場所があったと思います。自分たちに何ができる訳でもないのですが、佐々木社長がおっしゃっていた、「水の力をあなどってはいけない」という言葉を忘れずに、近年のゲリラ豪雨を含め、個人や会社の防災意識を高めることにつなげていければと考えています。



代表取締役
安野 広明

話は変わりまして、同封のチラシにもございますように、9月13日（金）には、毎年恒例、ビジネスプラン特別講演会を開催します。今年の講師は、コンサルタントの佐藤芳直先生です。「これから先、どんな時代になっていくのか？そしてその中で、個人として、また会社として、どんなことを大切にすべきなのか？」について、分かりやすく、シンプルに語っていただきます。どなたがお聴きになられても、価値の高い時間となることは間違いありません。ぜひ、いまのうちに日程を確保しておいて下さい！それでは「令和」も引続き、よろしくお願いします！！

「その昔、愛用していたフォークギターを見て、思ったこと」

私が初めてフォークギターを手にしたのは、高校3年生の時。当時は、ビートルズにはまっていたので、楽譜とにらめっこしながら、「Yesterday」や「Let It Be」や「A Hard Days Night」などの曲から練習を始めたと記憶しています・・・。
ご存知の通り、ギターを弾くためには、まず、コードを覚えなければなりません。その際、左指で弦を押さえるのですが、これが素人にはなかなか難しい。しっかり押さえないと綺麗な音は出ませんし、慣れるまでは、シャカシャカとストロークする右手のリズムとタイミングが合いません。さらに、コードを押さえた時の指先がジンジンと痛くなる始末。練習し始めの頃は、「F」のコードなんて、どうやったら弾けるようになるのか、さっぱり理解できませんでした。指が曲がらないし、痛いし、音が出ないし。
それでも、「ビートルズの曲を弾けるようになりたい」という想いが強かったのでしょう。地道に練習を続けるうちに、コードを覚え、綺麗な音でリズムよく弾けるようになりました。
そして、自分でも驚いたのは、弦を押さえる左の指先が硬くなったこと。いつの間にか、指がギター仕様になったみたいです。

これは経験した人にしか分からないと思いますが、本当に不思議でした。
ちなみに、ギターを弾かなくなるとしばらくすると、元の柔らかさに戻ります。だからいまの私の指先は、プニプニです。ある程度のコードを覚え、スムーズに弾けるようになると、次は、自分で曲をつくれたりします。実は私も、高校時代の友人と一緒に、ジョンレノンとポールマッカートニーになったつもりで（！？）、曲をつくったことがあるのですが、あまりの駄作ぶりに、音楽の才能は無さそうだと早目に気付けたのは良かったです（笑）。
それはさておき、ギターが弾けるようになるまでのプロセスは、仕事にも通じるのではないのでしょうか。
素人がギターを渡されて「自由に弾いていいよ」と言われても、右手でジャジャーンと鳴らすくらいしかできないのと同様、最初から「自分の好きなように仕事していいよ」と言われても、基礎が徹底されていなければ、何もできません。したがって、まずはギターのコードを覚えるかの如く、仕事の型（＝基本的な知識・能力・姿勢等）を身に付けることが不可欠です。

ただし、型が自分のものになるまでには、必ず、指先の痛み（＝挫折・失敗等）が伴います。それが嫌だからといって練習をサボれば、いつまで経っても一人前の仕事はできません。

その際、痛みを乗り越えられるかどうかは、かつて私が、「ビートルズの曲を弾けるようになりたい！」と強く願ったかの如く、「この仕事で〇〇をしたい！」という強い想いを持てるかどうか重要なポイントです。

それは、「このお客さんに認められるようになりたい！」「自分のスキルを磨きたい！」「もっと稼げるようになりたい！」など、何でもいいでしょう。強い想いを持ち、地道に練習していれば、いつの間にか痛みがなくなり（＝柔らかかった指先が硬く、強くなり）、型が身に付き（＝コードを覚え）、やがて応用が利く（＝自分で曲を作れる）ようになるのだと思います。

そういった意味では、ギターも仕事も、習得までのプロセスは似ているのかもしれませんが、倉庫に眠っていたフォークギターを見て高校時代を思い出し、そんなことを考えました。

東北研修旅行

令和元年6月6日（木）から6月8日（土）までの3日間、社員で東北へ研修旅行へ行きました。最後まで無線で町民に避難を呼びかけ、多くの職員が亡くなられた宮城県南三陸町の防災対策庁舎、多くの児童が犠牲となった石巻市の大川小学校などを訪れ、津波による被害の恐ろしさを感じました。また、震災によって被害を受けながらも、そこからたくましく立ち直られた株式会社ヤマサコウショウ様へ伺いし貴重なお話を聞かせていただきました。改めて私たちは悲惨な震災から学び、防災意識を高めなければならないと思いました。



セミナー紹介

令和元年5月13日に、昨年に引き続き、「人を大切にする経営実践講座」を開講しました。月1回、半年間に渡るカリキュラムです。18名の皆さんにご参加いただき、良い雰囲気が進んでいます。また、6月17日・18日には、四国の「いい会社」ベンチマークツアーとして、3社の視察を行いました。



本の紹介



『30日で人生を変える「続ける」習慣』

著者：古川武士

「継続は力なり」など、小さなことをコツコツと続けることが重要だということわざは沢山あります。しかし言うは易く行うは難し、実際に習慣として続けることは難しいもので、一念発起して運動を始めたり、節約を始めたりしたもの、結局長続きしなかった...そんな経験は誰しも心当たりがあるのではないのでしょうか。

本書では新しいことを始める際の30日間を「反発期」「不安定期」「倦怠期」の3ステップに分け、続ける為の具体的な対策方法を紹介しています。サッと読めるくらいの本なので、この本を読むこと自体を習慣にしくても良いのでご安心を(笑)

原 光



「目指したいのは、人の想いを感じる集団」



現在、人間が行っている仕事の多くが、近い将来、AI（人工知能）に取って代わられると言われています。そんな中で、会社として目指すべきは、「人にしかできないこと」の追求です。そしてこの、「人にしかできないこと」の最たるものが、「感じる力」だと思っています。AIは、相手の表情を読み取って喜怒哀楽を判定できたとしても、表情だけでは分からない相手の心まで感じることはできません。こればかりは、人間にしか不可能なはずですが、したがって、社内のメンバー1人1人がお客様の心を感じる力を身に付ければ、AI全盛時代が到来したとしても、お客様から必要とされ続け、永続的な発展が可能になると考えています。

では、どのようにして「感じる力」を身に付けるのか？

まずは、自らの感情を動かすことではないでしょうか。なぜなら、自分の感情が凝り固まっている状態で、相手の心を感じることはできないからです。

そしてそのためにも、具体的に行動することです。人は、自ら行動を起こした時に、その結果がどうであれ、感情が動きます。ですので、いくらスマホを眺めていても、感情に与えるインパクトは小さい・・・やはり、自ら積極的・主体的に行動した分だけ、感情が動き、感性が磨かれるはずです。ちなみに、弊社の看板には、「企業の未来を考える。街の未来を考える。その前に、人の想いを感じる会社でありたい。」とメッセージが入っているのですが、実は、「人の想いを感じる会社でありたい」の言葉には、「主体的に行動し、感じる力を身に付け、人の心に寄り添える集団を目指したい」という想いが込められています。（残念ながら、まだできていないことの方が多いですけど 汗）。

どれだけ頭で考えても、行動しなければ知らないのと同じ。これから先のAI時代でも、いや、AI時代だからこそ、存在価値を発揮できるよう、「行動」に重きを置くことで、「人の想いを感じる集団」を目指したいものです。

「それは人のためか？それとも自分のためか？」



「子供のために」や「社員のために」など、「あなたのために」と言いながら、その実、自分にとって都合のよい結果になるよう相手をコントロールしようとしている、なんてことは、誰にでもあると思います。

そして、こちらとしてはよかれと思ってやっているのに、相手が言うことを聞かないと、徐々に、こちらの顔が暗くなり、言い方がきつくなり、相手の欠点ばかりあげつらうことになる・・・これでは、自分にとっても相手にとってもよくありません。

漢字で、人の為（ため）と書くと、「偽」になりますが、基本的に、「人のため」の裏側には、自己中心的な考えによる「自分のため」があると認識すべきでしょう。その上で、他人を変えようとするのではなく、まずは自分が明るく振る舞うこと。本当に相手をよくしたいなら、あたたかも暗闇を照らす灯台のように、自分が明るくなり、周りを明るくするという発想こそが大切だと、以前、人生の師匠から教わりました。

人間の悩みはすべて、自己中心の考えがその通りにならなかった時に生じます。もしも「〇〇さんのために言ってあげてるのに・・・」というネガティブな感情が浮かんだら、いったん立ち止まり、「自分は暗い顔をしていないか？明るく振る舞えているか？」に意識を向けてみてもよいかもしれません。自戒を込めて。

「弱者にとって、激動期こそが大きなチャンス」



生物学的な研究によると、変化が大きくなればなるほど、生息できる生き物の数は少なくなるそうです。なぜならば、変化が大きすぎると、生物は変化に対応できなくなってしまうから。これは、分かりやすい現象ですよ。

では、変化が少ない環境ではどうなのか？一見すると、平穏な環境なのだから、生物の数も安定するかと思いきや、生息できる生物の種類は減少してしまうのだそうです。安定した環境では、実力の差がそのまま現れるため、実際には、激しい競争が起こります。そして、強い者が生き残り、弱い者は滅びていく…。結果として、生息できる生物の数は減ってしまうのです。

そのように考えると、生存競争に弱い生き物にとっては、激動期であれ安定期であれ、不利な立場にあると言えます。ただし、安定した環境よりも、変化のある不安定な環境の方が、多くの弱者にとってチャンスがあるという研究結果もございます。

それは、プロレベルのサッカーチームと草サッカーチームの試合に例えると分かりやすい。快晴で風もなく、整備された芝生のピッチ（＝安定した環境）で戦ったとすれば、100試合したとしても、草サッカーチームが勝つ可能性はありません。実力どおり、必ず強いチームが勝つはず。しかし、仮に、敵味方の区別がつかないほどの大雨で強風、かつ、ピッチもドロドロ（＝不安定な環境）であればどうでしょう。草サッカーチームが普段、悪条件での練習に慣れていたとすれば、100試合のうち、数回くらいは勝つ可能性があるかもしれません。弱者にとっては、不安定な環境こそが強者に対抗できる大きなチャンスとなるのです。

そしてこのことは、中小零細企業に置き換えても同じ。基本的に弱者に当たる中小零細企業にとっては、現在のような激動期こそが大きなチャンスと言えましょう。そのように前向きに捉え、これからも弱者は弱者なりの戦略で、一点集中の差別化を追求することが大切だと考えています。

毎年、弊社の地域貢献活動としてお正月に開催している「コメディ・クラウン・サーカスin益田」が、内閣府補助事業の地方創生「連携・交流ひろば」のインターネットサイトに、映像付で紹介されました。詳しくは、弊社ホームページをご覧ください。＊検索サイトで「あんの会計」とご入力下さい！

< 安野からのおすすめコーナー >

*このコーナーでは、私が独断と偏見により選んだ、おすすめの本や映画等を紹介いたします。何かのご参考にしていただけると幸いです！

小説「運転者」（喜多川泰 著）

累計80万部の人気作家、喜多川泰さんによる渾身の感動作です。喜多川さんには、約4年前に、「挑戦する勇気が未来を拓く」というテーマでご講演いただきました。「運は<いい>か<悪い>で表現するものじゃないんですよ。<使う><貯める>で表現するものなんです。先に<貯める>があって、ある程度貯まったら<使う>ができる。運は後払いです。何もしていないのにいいことが起こったりしないんです。-（本文より）」

仕事が上手くいかない時、自分が嫌になった時、「何で自分はこんなに運が悪いんだ…」と思い悩んだ時には、ぜひ、手に取ってみて下さい。きっと、世の中の見え方が変わると思います。

ビジネス書「日本はこうして世界から信頼される国となった」（佐藤芳直 著）

船井総研時代、創業者の船井幸雄氏に「10年に1人の天才コンサルタント」と言わしめた佐藤芳直先生による、歴史をテーマにした著書です。先祖が築き上げてくれた歴史から私たち大人は何を学び、どのようなかたちで次の世代へ語り継いでいけばいいのか。ペリー来航、吉田松陰、エルツール号遭難、日露戦争、日米戦争、特攻、新幹線…など、教科書では詳しく教えられない11の歴史を通して、私たちの先祖の生き方とは何かを見つめ直す、新たな日本人論が書かれています。なお、佐藤先生には、9月に開催するビジネスプラン特別講演会にて、講師をおつとめいただく予定です。詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

ビジネス書「なぜ、うまくいっている会社の経営者はご先祖を大切にしているのか」（天明茂 著）

天明茂先生の提唱される「家系分析」では、少なくとも三代先までの先祖の一人ひとりについて、どのような生き方をしてきたかを調べます。そしてそれを真摯に受け入れ、見つめることによって、自らの使命に目覚め、仕事も人生も好転するそうです。本書では、事業が好転した、家族が幸せになったという「家系分析」の効用を説くとともに、具体的な方法も解説しています。なお、天明先生には、10月に開催する弊社経営計画発表会の基調講演にて、講師としてご登壇いただく予定です。詳しくは、同封のチラシをご覧ください。